

第39回全国選抜高校テニス大会 大会レポート

大会レフェリー 岩佐 敏郎

3月19日(日)：実行委員会のジレンマ

実行委員たちは、朝から天気予報をチェックし続けていた。

「明日、雨の振り出しは、夕方になりそうだ…」

「開会式は、なんとか天神中央公園でやれそうだ。最低でも選手宣誓まではやらせたい。」
会長は決断した。

「明日の開会式は、予定通り天神中央公園でやりましょう！」

我々実行委員会は、腹をくくった。

3月20日(月)：決断、そして善後策

朝から、湿気を含んだ重苦しい西風が吹く。実行委員の願いも空しく、昼過ぎには雨が降り出し、開会式は21日に延期。16:00からエルガーラホールにて、各校顧問と主将が出席しての抽選会のみを実施することとした。鈴木大地スポーツ庁長官と福井烈日本テニス協会常任理事の挨拶を頂き、抽選会は滞りなく終わることができた。

「リオ・オリンピックで示されたスポーツの持つ力を、若い君たちにも体現してほしい！」

鈴木長官の熱いメッセージを、選手全員に聞かせてやれなかったことが悔やまれる。



3月21日(火)：開会式、団体戦1R



9:00より、博多の森インドアコート内で開会式を実施。選手全員が入場行進を行う。

「熊本は、元気で頑張っています！」

「熊本には、笑顔が溢れています！」

「家族や友人、先生方など、私たちを支え、応援して下さい。すべてのの方々に感謝を込め、仲間と共に渾身のプレーをすることを誓います！」

八代白百合学園高等学校の早川来夢さんと、熊本県立熊本工業高等学校の米田涼君の力強い選手宣誓を受け、大会の火蓋が切って下ろされた。

開会式を実施したことにより、大会日程の消化が懸念されたが、奇跡的に予定していた日程をすべて終了

することができた。(天は我々を見放してはいなかった…)

3月22日(水)：団体戦2R

この日からいよいよシード校が登場する。

男子は、相生学院(兵庫県)、秀明八千代(千葉県)、名経大市邨(愛知県)、そして高松北(香川県)が順当に3Rに駒を進めた。女子も、相生学院(兵庫県)、山村学園(埼玉県)、愛知啓成(愛知県)、そして柳川(福岡県)が順当に勝ち進んだ。

今年の福岡は、気温が例年になく低い。いつもならほころび始める桜も、じっと寒さに耐え、蕾も固いままだ。明日からの試合の厳しさを物語っているのだろうか。

3月23日(木)：団体戦3R～QF、個人戦予選1～2R

男子では、名経大市邨が、QFで東京学館浦安(千葉県)に3-0でまさかの敗退。女子では、山村学園が白鷺女子(神奈川県)に3-2で、愛知啓成が野田学園(山口県)に3-2で敗退。この選抜大会は、S1・D2・S2・D2・S3の5ポイントで勝敗を決する。特に2オールになった後のシングルス3にかかるプレッシャーは、並大抵のものではない。2オールを受けて戦うシングルス3には、テニスの実力の他にもプレッシャーに負けない強靱なメンタルが求められる。チームの勝敗を背負って打ち合うコートには、ある意味で悲壮感さえ漂う。

一方、この日からは団体戦で敗退したチームのシングルス1による個人戦が、春日公園テニスコートで始まる。個人戦優勝者には、USオープンジュニア予選出場の権利が与えられる。男子団体戦2Rで敗退した大分舞鶴(大分県)の田口涼太郎選手は、本戦へと駒を進めた。女子でも団体戦2Rで敗退した沖縄尚学(沖縄県)の我那覇真子選手が、本戦へと勝ち上がった。

3月24日(金)：団体戦SF、個人戦1R～2R

3月24日、全国各地の高校では終業式が行われる。しかし、この大会に出場している選手たちは、出席することは叶わない。母校の榮譽のために今日もコートに立ち、目の前のボールを思いを込めて打つしかない。

団体戦男子SF、相生学院は秀明八千代を3-1、東海大菅生(東京都)は東京学館浦安との関東勢対決を3-0で制して、明日の決勝戦へと駆け上がった。女子団体SFR、相生学院が白鷺女子の勢いを3-0で封じ、柳川も野田学園を3-0で退け、頂上決戦の舞台へと進んだ。



3月25日(土)：団体戦は相生学院がアベック優勝、個人戦3～4R

熊本県内の高校テニス部の皆さんが、バス3台で団体戦決勝の応援に駆けつけてくださった。会場に活気が満ちて、決勝戦が大いに盛り上がった。ささやかな気持ちのお返しに、こんなに元気を与えてもらって、うれしい気持ちは時にうまく言葉にできないこともある。熊本県高体連テニス専門部の皆さん、本当に心から感謝します。



男子団体戦 Final、相生学院が東海大菅生を3-0で下し、優勝。

優勝後のインタビューで相生学院の荒井貴美人監督は、

「生徒たちが(優勝を勝ち取るということを)自覚して、しんどい時でも練習に、勉強に手を抜かない、という姿勢が、今日の結果に結びついたと思います。」



女子団体戦 Final、相生学院が柳川を3 - 2の接戦で下し、優勝。

優勝後のインタビューで相生学院の丸尾幸弘監督は、

「選手たちが尻上がりに調子上げ、最後の決勝戦では、全員で勝ち取ることができた。この勢いをインターハイにつなげていきたい。」

男子個人戦 4 R を制した大分舞鶴の田口涼太郎君と秀明八千代の白石光君は、共に1年生であり、次年度インターハイ(福島県会津若松市)での活躍を十分予感させるものである。女子個人戦 4 R を制したのは、山村学園の黒須万里奈選手と愛知啓成の阿部宏美選手であった。



3月26日(日)：個人戦 S F R ~ F R

「オレ、来年もこの大会に絶対来ます！」

昨年9月、相生学院の菊地裕太選手は、ニューヨークのJFK国際空港で宣言した。この大会で、彼は予選を勝ち抜き、本戦1 R でアメリカ人選手に惜敗した。

男子個人戦 Final、菊地裕太選手は、秀明八千代の白石光選手を2 - 0で下し、大会二連覇、しかも有言実行を果たした。彼のこの1年間の努力に敬意を表したい。また、敗退したとはいえ、白石選手のディフェンス力の高さには驚かされた。インターハイまでに攻撃力が上積みされればさらなる活躍が期待される。

女子個人戦 Final、山村学園の黒須万里奈選手と柳川の宮原三奈選手との決戦は、壮絶な打ち合いとなった。2時間超の熱戦は、黒須選手が2 - 1で勝利を手にした。

黒須選手は、優勝後のインタビューで

「US Openでは、自分のスピニングボールを武器に海外の選手にどれだけやれるかを試してみたい」と力強く語ってくれた。



大会終了を見計らうように、大粒の雨が博多の森のコートを濡らした。選手たちの熱い戦いの余韻を冷ますかのように。本大会を開催するに当たって協力して頂いた関係各位に、心よりお礼申し上げます。そして…感謝、来年もこの地で再会できることを。